

登録番号 15 — 006

氏名 木村 和弘

登録番号 15 — 012

氏名 三浦 紀夫

登録番号 16 — 002

氏名 河岡 秀明

## 大阪市地域公共人材活動報告書

- 1 派遣日時 令和 4 年 11 月 12 日（土） 19：30 ～ 21：30  
（第 1 回次）
- 2 派遣場所 西都島地域活動協議会
- 3 参加人員 11 人 派遣依頼団体 5 名、地域公共人材 3 名、  
都島区まちづくりセンター 2 名、市民局 1 名
- 4 活動内容

### ① 派遣内容

青指、PTA、子ども会他、若い層の活動を 1 つにまとめ、若い層をリーダーとして地域の祭りを盛り上げていきたい。その為の具体的な内容や地域の高年齢層との関わりなども考慮しながら、どう動くのか確認するための会議を実施するにあたって、ファシリテーションを行う。

### ② 支援内容

初回ヒアリングを受け、参加者に思いを伝え、参加者の意見や思いを聞き、催しを企画から作り上げる中で「自分事」として参画してもらう機会とするファシリテーションを行う。リモートで事前に派遣者がミーティング。支援方針を確認・共有し当日を迎えた。

【役割分担】進行：A さん、記録：B さん、参加者として意見出し：C さん

「団体の方お二人が次時代のリーダーとしてチームを作っていく」

「にしみやまつりを何のため、誰のために行うのか？言葉にして残す」

「既存組織との関係性の注意」

などを事前に共有し意識して話し合いに臨んだ。

### ③ 今回の派遣の成果

初回ヒアリングでお話を聞いた団体の方お二人と新規に参加された方 3 人の計 5 人が意見を述べやすいようにリードし、大きく 2 つのパートで話し合った。

1. 「にしみやまつり」とは何か？何のため？誰のためにするのか？
2. 具体的なワクワクする企画と、組織体制・外堀固め

1 の「何のため？誰のため？」は時間をかけ意見を聞く。自由に意見を述べていただき「子どものため」だけではなく「地域の未来のつながりづくりのため」「そこに暮らす自分自身のため」といった本音もでてきた。昔の（コロナ禍前）形式にとらわれることなく、負担は少なく効果が多い効率的な催しをイメージされているようだ。さらにはここにいるメンバーが中心となりさらに「人材」を巻き込む「チーム作り」をめざしている。

2は参画する（声をかける）団体・グループがコンテンツを持ち寄り、それらを統合するような「文化祭形式」「実行委員会形式」が話し合われた。他地域の事例を「派遣員」も紹介し参考にしてもらう。この取り組みを継続的に続け、輪を広げていけるように、地活協（主催者）や連合組織など既存の組織に正しく「プレゼン」できるようにとの話が出た。

2つのパートを行ったり来たりしながら話は進み「言語化する」ところまではいかずとも「候補」が上がり、「チームづくり」に関しても互いの思いを聞いてそれを大事に作り上げていこうという姿勢が見られた。

#### ④ 今後のスケジュール

第2回：12月10日（土）19:30～21:30 西都島福祉会館

：「にしみやまつり・アイデア出しミーティング②」

第1回を受け「続き」で話し合う。

柱となる「言葉」を決める

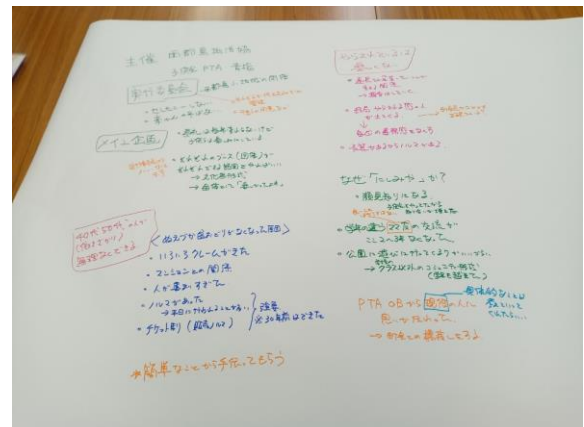
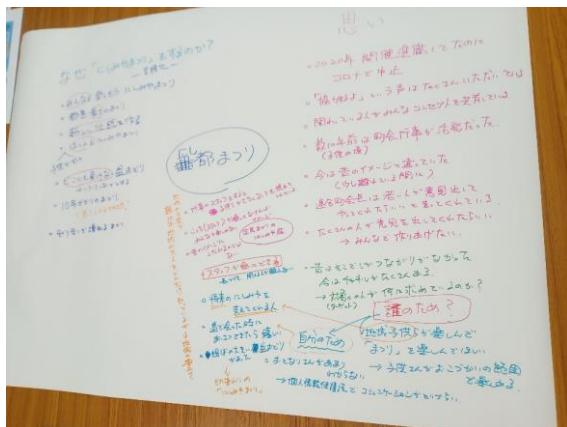
組織形態と今後の作戦を決める

：参加者 第1回目参加メンバー+αをイメージ

第3回：時期未定

：初回ヒアリング参加者を集めての「フィードバック」

#### <今回の記録>



#### ⑤ 所感

「にしみやまつり」のイベントを開催する！が目的ではあるが、それだけにとどまらず「コロナ禍」を経た新しいイベントの在り方、既存の組織と違う「やりがい」を感じ「負担」を減らせる運営、何よりも「モチベーション」の維持できる、継続できる取り組みにしたいという話し合いになった。まさに「進化する地域活動」の先進事例となるよう支援していきたい。関わる皆さんと、団体の方が新たな形態でつながりあう見本となるような組織はできないか？派遣を終えた時に、団体の方お二人がバトンを受け、チームを作り広げ、催しを実行していけるような派遣にしていきたい。

次回はある意味山場。全員が納得できる言葉を、今回の候補の中から紡ぎだせるか？だと思う。

#### 所感

初回ヒアリングの際、団体の方お二人が既に「にしみやまつり」の全体像をお持ちで、そ

れに対して「みんなが協力してくれたらいいのに」という感じがありました。今回のミーティングでは団体の方お二人のこだわりをどれだけ譲歩できるかが課題だと思っていました。始まってみると、団体の方お二人以外の参加者も熱い思いを持っておられ、積極的にご自身のお考えを発言していただけたように思います。一番印象に残っているのが、「子どものためというのはそうだが、実はそれ自体が押し付けでもある」という趣旨の意見が出たことです。「自分のため」というのがなければ楽しくないし、結局「やらされた」というイメージが残るだけという過去の経験が出たことを素晴らしいと思いました。今回の活発な意見交換が次回のミーティングでどう方向性としてまとまっていくのか楽しみです。

## 所感

「にしみやまつり」のイベントを実施することで地域の仲間との会議にて地域当事者としての『地域への思い』を話していただいたことで、それぞれのこれからの地域感が共有できたことが成果だったと思いました。優等生的な回答に偏りがちな意見だけでなく、長年の経験者からは過去体験からの「これだけはやらない方が良いこと」や現役子育て世帯からは「現代は地域以外にも関われるコミュニティが多いので地域にこだわらないのでは」と意見が出たことで、町会などの世代と子育て世帯との間に入ってくれる団体の方お二人が世代間の意見調整をして頂けるとおっしゃってたのが頼もしく思いました。

今回の会議でお互いちゃんと口に出したことで仲間意識の地固めができたことが一番の収穫だったと思います。

次回の会議で更に同じ方向性を持つ仲間が沢山集まり、「にしみやまつり」から始まる、次世代への地域づくりが始動できるようにと応援したいです。